

審査意見への対応を記載した書類(7月)

(目次)理工学研究科工学専攻(M)

**【教育課程等】**

1. 修了要件について、「累積GPA2.00以上」を課しているが、「評価D(可GP=1)」であるため、必要な単位を修得していても修了要件を満たさないこととなる。このことを踏まえ、修了要件に「累積GPA2.00以上」を課している考えを説明すること。(意見)・・・1

**【その他】**

2. 入学者選抜について、一般選抜(口述試験)と一般選抜(筆答試験)はどのような学生を対象としているのか説明するとともに、それぞれの選抜区分の選抜実施時期が不明確であるため、説明すること。(意見)・・・2

(意見)理工学研究科工学専攻(M)

1. 修了要件について、「累積GPA2.00以上」を課しているが、「評価D(可GP=1)」であるため、必要な単位を修得していても修了要件を満たさないこととなる。このことを踏まえ、修了要件に「累積GPA2.00以上」を課している考えを説明すること。(意見)・・・1

(対応)

個々の履修科目は、評価A(秀GP=4)、B(優GP=3)、C(良GP=2)、D(可GP=1)、F(不可GP=0)で評価され、評価D以上が合格であるが、本研究科の修了生が基礎学力と応用力を身につけ、幅広い分野の履修により将来のキャリアについて明確なビジョンをもち、幅広い基礎的素養、高度な専門性、広い視野を併せもち、かつ各研究領域・分野の高度に実践的な活動に、進んでチャレンジするイノベーションマインドの取得を目的とする観点から、評価AもしくはBによる修得を理想とする。累積GPA 2.00未満の場合、理想に到達しない評価が多く含まれる可能性があることから、学生自身に高い意識を持たせること及び本研究科の目標を達成するうえで総合的に判断し、修了要件として累積GPA 2.00以上を課することとした。

なお、本研究科では、既に平成25年度入学生から、修了要件として累積GPA 2.00以上を課しているが、これまでの過去5年間の修了生1,338名の累積GPAの平均値は3.61であり、累積GPA2.00以上を課することは合理的であって、モチベーションの高い優秀な修了生を輩出することにつながっているものと考えている。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>P24 <u>修了要件として累積GPA 2.00以上を課している理由は次のとおりである。本研究科の修了生は、基礎学力と応用力を身につけ、幅広い分野の履修により将来のキャリアについて明確なビジョンをもち、幅広い基礎的素養、高度な専門性、広い視野を併せもち、かつ各研究領域・分野の高度に実践的な活動に、進んでチャレンジするイノベーションマインドの取得を目的とする。個々の履修科目は、評価A(秀GP=4)、B(優GP=3)、C(良GP=2)、D(可GP=1)、F(不可GP=0)で評価され、評価D以上が合格であるが、本研究科の修了生が前述のイノベーションマインドの取得を目的とする観点から、評価AもしくはBによる修得を理想とする。累積GPA 2.00未満の場合、理想に到達しない評価が多く含まれる可能性がある。したがって、学生自身に高い意識を持たせること及び本研究科の目標を達成するうえで総合的に判断したものである。本研究科では、既に平成25年度入学生から、修了要件として累積GPA 2.00以上を課しているが、これまでの過去5年間の修了生1,338名の累積GPAの平均値は3.61であり、累積GPA2.00以上を課することは合理的であって、モチベーションの高い優秀な修了生を輩出することにつながっている。</u></p>	<p>P24 <u>累積GPA 2.00以上の規定は次のことを想定している。本研究科の修了生が基礎学力と応用力を身につけ、幅広い分野の履修により、将来のキャリアについて明確なビジョンをもち、幅広い基礎的素養、高度な専門性、広い視野を併せもち、各研究領域・分野の高度に実践的な活動経験を有するイノベーションマインドを身に付けることを前提に、評価A(秀GP=4)、B(優GP=3)、C(良GP=2)、D(可GP=1)、F(不可GP=0)のうち、個々の学生が評価AもしくはBの修得を理想とする。したがって、GPA 2.00未満の場合、DもしくはFが多く含まれることが予想されるので、修了生の質を保証するうえで最低限の閾値とした。</u></p>

(意見)理工学研究科工学専攻(M)

2. 入学者選抜について、一般選抜(口述試験)と一般選抜(筆答試験)はどのような学生を対象としているのか説明するとともに、それぞれの選抜区分の選抜実施時期が不明確であるため、説明すること。(意見)・・・2

(対応)

本研究科の入学者選抜に関して、それぞれの選抜区分の対象となる学生、選抜方法、選抜実施時期及び実施プログラムについては、次のとおりである。

選抜区分	対象となる学生	選抜方法	選抜実施時期	実施プログラム
(1)一般選抜(口述試験)	コミュニケーション能力(専門知識や志望理由などを口頭で説明する力)の高い学生	口頭試問、面接	7月初旬	全プログラム
(2)一般選抜(筆答試験)	修学に必要な基礎学力(専門分野、英語)を持った学生	専門科目、外国語科目(英語)、面接	8月下旬	全プログラム
(3)推薦特別選抜	成績優秀学生	口頭試問、面接	7月初旬	全プログラム
(4)他分野入学志願者特別選抜	他分野・他プログラムからの学生	口頭試問、面接	7月初旬	全プログラム
(5)社会人特別選抜	社会人	口述試験	8月下旬	全プログラム
(6)外国人留学生特別選抜	外国人留学生	専門科目、外国語科目(日本語又は英語)、面接	8月下旬	全プログラム
(7)英語コース特別選抜	英語のみで修了できる英語コース入学者	外国語科目(英語)、口頭試問、面接又は専門科目・面接	5月	2プログラム(※)

(※)建築学プログラムの建築設計分野、化学生命工学プログラムの応用化学・生命工学分野

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>P33                      入学者選抜は下表(表5)のようにする。選抜区分は養成する人材像及び教育課程に基づいて、学士・修士一貫教育学生を含む成績優秀学生を対象とした「推薦特別選抜」、英語のみで修了できる英語コース入学者(10月入学)を対象とした「英語コース特別選抜」(建築学プログラムと化学生命工学プログラムで実施)を新設する。また、他分野・他プログラムからの学生の受入れを対象とした「学際分野特別選抜」は名称を「他分野入学志願者特別選抜」に変更して全プログラムで実施する。一般選抜は、多様な人材を受け入れるために、<u>修学に必要な基礎学力(専門分野、英語)を持った学生を対象とした「一般選抜(筆答試験)」「基礎学力重視型選抜」に加えて、コミュニケーション能力(専門知識や志望理由などを口頭で説明する力)の高い学生を対象とした「一般選抜(口述試験)」「コミュニケーション能力重視型選抜」を実施する。</u>「外国人留学生特別選抜」は、一般学生と同様に入学後は日本語で行う授業を含め履修する外国人留学生を対象としている。<u>選抜実施時期は、「推薦特別選抜」、「他分野入学志願者特別選抜」、及び「一般選抜(口述試験)」は7月初旬、「一般選抜(筆答試験)」、「外国人留学生特別選抜」、及び「社会人特別選抜」は8月下旬、「英語コース特別選抜」は5月を予定している。</u>なお、学士・修士一貫教育と一般教育の振り分けは、学生の希望と学業成績を基に学部3年進級前に行う。</p>	<p>P33                      入学者選抜は下表(表5)のようにする。選抜区分は養成する人材像及び教育課程に基づいて、学士・修士一貫教育学生を含む成績優秀学生を対象とした「推薦特別選抜」、英語のみで修了できる英語コース入学者(10月入学)を対象とした「英語コース特別選抜」(建築学プログラムと化学生命工学プログラムで実施)を新設する。また、他分野・他プログラムからの学生の受入れを対象とした「学際分野特別選抜」は名称を「他分野入学志願者特別選抜」に変更して全プログラムで実施し、「一般選抜(口述試験)」も全プログラムで実施する。「外国人留学生特別選抜」は、一般学生と同様に入学後は日本語で行う授業を含め履修する外国人留学生を対象としている。なお、学士・修士一貫教育と一般教育の振り分けは、学生の希望と学業成績を基に学部3年進級前に行う。</p>